④ プールのヤゴ救出作戦

1　子どもたちに伝えたいこと

・学校プール授業のための水抜き・清掃前にプールにいるヤゴなどの生き物を救出することが目的。
・トンボの生態について(トンボの幼虫がヤゴであること、プールの中の食物連鎖)。
・地域の生態系の中でのプールの役割(ヤゴをはじめとした水生昆虫など、プールを利用する生きものがたくさんいること)。
・プールと周囲の環境との繋がり(トンボや水生昆虫はどこからやってきたか)。

2　実施時期：５月～６月(プール清掃の直前)
　　観察だけであれば１月～４月でも可能

＜救出したヤゴ＞

3　実施場所：学校プール

4　対象学年：全学年

5　関連教科：生活科、理科、総合

6　時数：２時限

7　事前準備

・プールに入る時の服装(体操服や古い上履き、運動靴などの水に濡れてもよい服装・靴、着替え)などの準備の指導
　＊裸足は危険なので厳禁、長靴や脱げやすいサンダルやクロックスは不可
・プールの水位を 30 ㎝ほどに下げておくこと。ヤゴが流されないように数日かけてゆっくり抜くことが望ましい
・捕まえたヤゴや水生生物を飼育するか、校内のビオトープなどに放すかを事前に決めておくと良い。また飼育する場合は、飼育容器を準備しておくこと
・ヤゴの見分け方、飼育の仕方の資料の作成・印刷(事前にプールにどんな種類のヤゴがいるか確認しておくと良い)

8　当日

（1）準備する材料や道具
　学校：魚とり網、水槽やバケツなどヤゴを入れる容器、印刷した資料
　どんぐりクラブ：魚とり網、観察ケース、バット、水生昆虫図鑑

（2）授業の流れ
　① あいさつ
　② ヤゴのお話(プールの生き物について、ヤゴの生態について、代表的なヤゴ)
　③ ヤゴの獲り方のレクチャー、注意事項
　④ プールに入ってヤゴ捕り(ヤゴが隠れている池底の泥や落ち葉を網で掬う)
　⑤ 捕まえた生き物の観察(大まかな種類を分けと計数)
　⑥ まとめ(捕まえた生き物の種類と数、捕まえた生き物と学校周辺の環境との関連)
　⑦ ヤゴの飼い方レクチャー

9　備考

・ヤゴの飼育には水槽、タライ、バケツなどの広めの容器があるとよい。またペットボトルで自作することも可能
・プールを季節限定のビオトープととらえれば、どのようにすればより多くの生き物が利用できるようになるかをその後の授業の中で考えることも出来る(例えば、トンボの産卵場所やプランクトンの発生源となるワラを入れるなど)。